

# 足利風 -ashikaga-fu

2017  
6月号

Vol. 50



画：中山 キッコ

## 足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- \*特集！
- \*TOPICS
- \*私のボランティアことはじめ
- \*サークル紹介
- \*インフォメーション
- \*センターからのご案内

## \* 観音さまと羅漢さん \*

～あなたがそこに ただいるだけで その場の空気が あかるくなる  
あなたがそこに ただいるだけで みんなのところが やすらく  
そんな あなたにわたしも なりたい～

相田みつをさんは、高福寺で武井哲応師から、道元「正法眼蔵」の講義を、在野の仏教徒として聴いた。その相田さんが「仏教というのは、“いまここ”を生きる人間のための教えだと思えます」と言っている。与えられたいのちを、いのちいっぱい生きること。..べんかい言い訳をしなくても、観音さまが、ちゃんと見ていてくれるから..。相田みつをさんは「足利の人たちはみんな、私を生かしてくれた観音さまです」とも言っていた。また、ボランティア・NPOの“協働”の真ん中にあるものを、相田みつをさんは「人は理屈では動きません。感動や共感で動くんです。」と、きっぱりと話している。



伊藤若冲は、晩年、京都深草の禅刹・石峰寺の門前で暮らしていた。石峰寺の裏手の丘には、若冲が下絵を描いて、石工に彫らせた五百羅漢たちが配置されている。若冲が演出した石峰寺の五百羅漢。その奇抜なデザインは、独特なユーモアにあふれている。おとぎ話の世界～ワンダーランドに住む若冲がここに..在る。

歌人・吉井 勇が、数百年の風雪にさらされ、草に埋もれ、葛のからまるにまかされていたのを発見、数十首の歌に詠んだ

～たそがれの羅漢の山にのぼり来てはるばる遠き秋の日を見つ～

さまさまの羅漢の姿刻みたる石ことごとく秋風に鳴る... 私の目を驚かしたのは、その落ち葉に覆われた丘の上ばかりでなく、すぐ近くの

深い谷間にまで累々として横たわっている、無数の石の羅漢像であった。私は遠く愛宕につづく西山に落ちかかっている秋の日を眺めながら、立ったり、倒れたり、座ったりしている羅漢像を、この世を離れた仙境にでも来たような心持で、ひとつひとつ見て歩いた。..

羅漢とは阿羅漢(小乗仏教の修行者の極位)であり功德の備わった偉い修行者だが、石峰寺の若冲プロデュースの羅漢たちは私の心を癒してくれている。

(M生)

## \* 満開の桜を観ながら歌いました！ \*

4月1日10:30～12:00、みんなの広場は50名を超える参加者が満開の桜を観ながら、「みんなのしゃべり場」恒例の山田悦子さんの歌唱指導で、歌い語りました。山田悦子さんの想いを込めた選曲で、東日本大震災被災地に関わりのある“群青”などを歌いました。中休みには、福島のみまわりプロジェクトの種も配布されました。BANNA15名のゴスペル等も披露され盛況のうちに散会となりました。参加者のみなさんありがとうございました！

## \* 足利銘仙を楽しむ \*

～ JUNKO テキスタイル  
平岩 順子～



初めまして。私は両毛産地においてテキスタイルデザイナーとして活動しております平岩順子です。足利との関わりは、足利銘仙の仕事を家業とする家に生まれたことです。

4年前に足利市内の実家にアトリエ「JUNKO テキスタイル」を構え、祖父の残した「銘仙帳」をもとにデザインしたバックや布小物「足利銘仙クラシコレクション」の製作を始めました。祖父の残した大正14年の「足利銘仙切れ地帳」には祖父と職人の巧み技で作られた銘仙の端切れがびっしりと貼られています。当時、普段着として日本の女性に着られた着物地としての足利銘仙の布の奥深い技術力の高さを見ることができます。祖父の残したテキスタイルの美しさに感銘し、中学生の時、工場が取り壊される時、手元に残しました。銘仙小切れ帳を、生かす仕事をしたいと思い続けやっとならここで始めました。足利銘仙の特徴は、昨年足利美術館で開催された「VIVID 銘仙」で鑑賞された方も多い事でしょう。銘仙は、大正から昭和前半期に大流行した絣着物で、斬新なデザイン、鮮やかな色、しかも庶民の手に届く値段で当時の女性の間で圧倒的な人気を誇っていました。最後に、活動としましてテキスタイル展個展開催、商工会議所内shopで足利みやげ布小物販売等です。又、今年十月末から足利市民活動センターにて器と衣の二人展を開催します。

足利銘仙を楽しむことで、布の輪が広がり、暮らしの中で着ごこちの良い物作りを通し、足利が住み良い街に i n g。

---

## \* “足利源氏”でまちおこし～「リビルドの会」\*

私たちは、足利の歴史を研究する中で、足利源氏の歴史遺産を常時公開する「宝物館」の開設を目指しています。足利にとって、この歴史は大きな財産であり、後世にしっかりと伝えていくべきであると思っています。そのために、小中高に語り部を派遣したり、講演会などを開催して、市民啓発を図りたいと思っています。

☎0284-41-0284(幹事長・吉沢菊男)

## ① インフォメーション ①

### ☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。  
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、  
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。  
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★ 6月17日(土) 10:00am～12:00pm

\* 本 : 「自閉症の僕が跳びはねる理由」(東田直樹)

\* 案内人: 斎藤ゆみさん

\* ひとこと : 僕は跳びはねている時、気持ちは空に向かっています。空に吸い込まれてしまいたい思いが、僕の心を揺さぶるのです・・・。人との会話が困難で、気持ちを伝えることができない自閉症者の心の声を、著者が13歳の時に記した本です。障がいを個性にかえて生きる純粋でひたむきな言葉は、当事者や家族だけでなく、海をも越えて人々に希望と感動をもたらしました・・・。

★ 7月21日(金) 2:00pm～4:00pm

\* 本 : 「かんのん讃歌」(相田みつを)

\* 案内人: 鈴木光尚さん

\* ひとこと : 足利が生んだ書家であり、詩人でもある相田みつをさんは、在野の仏者でもあります。「いま、ここ」を生きる人間のための教えが仏教だと語る相田みつをさんの言葉にひととき寄り添ってみませんか。

～あなたがそこにただいるだけで その場の空気が あかるくなる  
あなたがそこにただいるだけで みんなのところが やすらぐ  
そんな あなたにわたしも なりたい ～

■会場:足利市民活動センター ■参加費:無料

■お問い合わせ・事務局:足利市民活動センター ☎44-7311

## \* センターからのご案内 \*

### ☆みんなの広場 ～ 6月・7月のご案内 ～

\*彩美会 水彩画 展 (6月 5日～6月15日)

\*書と石でコラボする二人 展 (6月19日～6月29日)

\*シルバー大学校・足利作品展 (7月 3日～7月13日)

\*女流ことのは書展 (7月18日～7月27日)

### ☆相談室&講座のご案内

\*相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

\*講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

## 編集後記

高校時代の友人から封書で届いた手紙。メールでやり取りする日常の中で、感動して何度も読み返してしまった。昔、記念切手を買ったのを思い出し小箱を開けてみると、見返り美人に其一の菊や桜・・・なんか楽しくなってきた。たまには手紙をしたためよう。(ブリーオ)